

(7-1) 第1回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和6年1月12日(金)午前10時00分から正午まで

【場所】サンマリン気仙沼ホテル観洋 マリンビュー

【委員からの主な意見】

- ① 地域が盛り上がらないとだめだと思い、地域一体で観光振興に取り組んでいる。宿泊客の単価は正確なデータが必要と思うが、エージェントと連携することはできないか。
- ② 情報量が多い場合はAI等を活用した方が正確なこともある。売り上げはコロナ前の水準に戻ってはいるが、物価高の影響により利益が発生するかどうかは疑問。宿泊料金の値上げには勇気が必要で、インターネット上で他施設の動向を拾い上げて調べている。
- ③ 県でエージェントと調整してスピーディーに対応すると、冷静な判断ができると思う。
- ④ 地域や業態(温泉、シティホテル等)が違えば、事情はそれぞれ異なる。宮城は特に仙台圏とそれ以外とで大きく変わる。政策を考える際には、その点について、しっかり議論して欲しい。
- ⑤ 資料19Pに、訪問回数「5回以上」が約6割とあるが、宿泊の現場では全く感じない。
- ⑥ 今後の施策の方向性の議論にあたり、ビジネス客と観光客を一緒にしたデータでは意味がない。客単価や満足度、観光客やビジネス客など、それぞれ別のデータとして収集・分析すべき。
- ⑦ 「食」を組み込んだガストロノミーツーリズムも、豊富な食材を抱える県や当圏域で大きなコンテンツになりえる。特にインバウンドは食文化を含めて売り込んでいくことが重要だが、新潟を含め、東北全体で連携して進めて欲しい。
- ⑧ スポーツに関するツーリズム、マリンアクティビティを取り上げていただき、その成果を発信して欲しい。少人数での体験から徐々に次の宿泊に繋がっている。
- ⑨ 体験のコンテンツを提供しているが、県で動画の配信をしていただき、実際の来客に繋がっている。単発で終わることなく継続的に取り組んでいただきたい。
- ⑩ 昨年からは県外からのお客も1~2割迎えられるようになった。県外客の受け入れにあたって宿泊施設の充実が必要。
- ⑪ 宿泊税について、前回の議論でも用途は分からないが徴収する、また、町や観光協会が宿泊税に反対してくれないということで観光協会の理事を辞めた人もいた。
- ⑫ 宿泊税の用途が重要。この圏域にきちんと使ってもらえるか、民泊等への課税、教育旅行や地域に移行する部活動への証明事務、外国人の修学旅行への適用等、まだ不明確な部分がある。
- ⑬ 宿泊税が2020年度と同じ内容で提案されており驚いた。我々のような小規模事業者にとっては死活問題である。宮城県は小規模の宿泊事業者は不要ということか。
- ⑭ 宿泊施設に課税するならば、用途は宿泊施設に限定すべきであり、1泊3,000円未満は課税されないとのことだが、この値段で宿泊できる施設はなく、絵に描いた餅である。
- ⑮ 一律300円の宿泊税となった場合、1泊6,000円の事業者では税率5%、1泊30,000円の事業者では税率1%である。一律300円はあり得ない。
- ⑯ 県境に位置している事業者では、宿泊税が徴収されない岩手県の宿泊施設に流れる。立地条件から宮城県には宿泊しないということが出てくる。
- ⑰ オーバーツーリズムの地域なら宿泊税は考えられるが、宮城はそこまで至っていないはず。
- ⑱ 周りの意見を聞くと、宿泊事業者は反対が多い。議論を進めるにあたっては、宿泊事業者の理解をどう得られるかが課題だが、きちんと理解を得たうえで議論を進めてほしい。

- ①⑨ 今後、どのように進めていくのか、スケジュール感や今回の会議の意見をどう反映させるのか、県の観光財源がこの程度不足していて、これくらい必要になるという部分を明確にして欲しい。
- ②⑩ コロナが終息したといってもまだ1年。宿泊業者はコロナ禍の3年間、借り入れなどで何とかやりくりしてきた。客室数が決まっているため、定員以上は宿泊させられない。時期尚早。
- ②⑪ 県は宿泊施設ではなく客が払うというが、実際には宿泊業者が負担せざるを得ない。
- ②⑫ 宮城県内では観光客に対して客室数は供給過多。オーバーツーリズムには至っておらず、宿によっては、料金を下げるなどの対応を取っているところ。
- ②⑬ 宿泊施設の最大の課題は人材。観光業の底上げには給料のアップが必要だし、そのためには宿泊施設自体の体力アップが重要。
- ②⑭ 気仙沼市内では、30万人の宿泊者数となっているが、そのうち7割がビジネス客。また、仙台圏からの客も多い中、どのような説明をして宿泊税を徴収するのか。我々は説明できない。
- ②⑮ 宿泊税は使途、目的が明確なら有効かと考える。観光イベントなどの情報発信にそういった財源が活用されれば、観光事業に取り組んでいる主体のやる気も出てくる。
- ②⑯ 宿泊税については、観光以外の宿泊客が数多くいらっしゃることを考えると、簡単に判断できるものでなく、県外からの体験のお客様を迎えるためには宿泊施設の充実は重要だと考える。もう少し協議しながら、より良い方向で進めていただきたい。
- ②⑰ コロナ禍があけ、気仙沼はイベントやスポーツなどが増えてきて、宿泊についても影響があった。今後の観光政策展開が重要であると感じているが、その財源が宿泊税だということは残念。
- ②⑱ 宿泊者から入湯税の負担いただいているが、スムーズに負担してくれる客、入浴していないと負担しない客もあり、税金の重み、負担いただくことの大変さを実感している。示された観光政策の実現にあたり宿泊税がないと実現できないのかと、残念な印象を受けている。
- ②⑲ 広島県の宮島の入島税の導入時にも3年かけて住民の方々、来訪者にアンケートをとったと聞いている。そういう丁寧な取組が重要。宿泊者と納税義務者の気持ちを今一度考えてほしい。
- ③⑩ 当圏域会議を挙手制で諮ったとすれば、ほぼ反対意見。全体会議でもしっかり伝えてほしい。
- ③⑪ 県観光連盟のDMO登録について、各地域のDMOをバックアップするというのであれば理解できる。
- ③⑫ DMOについて、県観光連盟が稼ぐのではなく、地域が稼ぐとされているが、今の県観光連盟の体制の中で対応できるのか心配である。